



船ふねのけんせつ

だい7しょう



リーハイのかぞくが海うみのそばで何日なんにちもすごしていると、主しゅはニーファイに語かたられました。主しゅは、やくそくちへの地へ行くために、ニーファイに船ふねをつくるように言いわれました。(1ニーファイ17：7-8)



ニーファイは、船ふねのつくり方かたを知りませんでした。でも主しゅは、そのほうほうをしめすと言いわれたのです。そして、ひつようなどうぐをつくるためのあらがねおしのありかをニーファイに教おしえられました。(1ニーファイ17：9-10)



レーマンとレムエルは、船ふねをつくりはじめたニーファイをあざわらいました。主しゅが、ニーファイに船ふねのつくり方かたをしめされたことなど、信じようともしなかったのです。レーマンとレムエルは、手つだいをするのをいやがりました。(1ニーファイ17：17-18)



ニーファイは、レーマンとレムエルに、くいあらためて、神かみにさからわないように言いいました。ニーファイは、にいさんたちにてんしをみたことを思おもい出ださせ、神かみはすべてのことをなす力ちからをもっておられると言いいました。(1ニーファイ17：45-46)



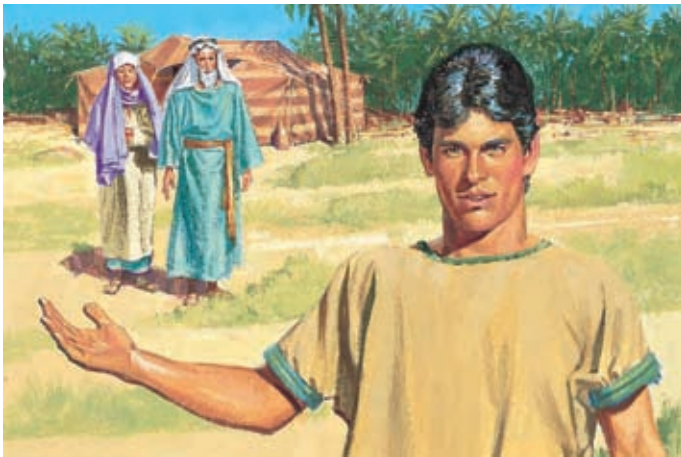
レーマンとレムエルは、ニーファイにはらを立て、海うみにほうりなげようしました。(1ニーファイ17：48)



にいさんたちが近づいて来た時、ニーファイは自分にさわってはいけないと言いました。ニーファイは神の力にみだされていたからです。レーマンとレムエルは何日もこわくてたまりませんでした。(1ニーファイ17:48, 52)



それから主はニーファイに、レーマンとレムエルにさわるように言われました。ニーファイがさわると、主はレーマンとレムエルを、ふるえさせられました。レーマンとレムエルは、神の力がニーファイとともにあることを知ったのです。(1ニーファイ17:53-55)



ニーファイは、神としようしにしたがうように、そしてそうするならば、しゅくふくがあたえられるだろうと、レーマンとレムエルに言いました。(1ニーファイ17:55)



レーマンとレムエルは、くいあらためて、船をつくるためにニーファイをたすけました。(1ニーファイ18:1)



ニーファイは、たすけをもとめているのために、なんども山に入って行きました。主はそのたびに、ニーファイに船のつくり方を教えられました。(1ニーファイ18:3)



ニーファイとにいさんたちが、船をつくり上げてみると、それは本当にすばらしい船でした。みんなは主がたすけてくださったことにかんしゃしました。(1ニーファイ18:4)